

旭川医大 病院ニュース

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

ランパーン病院（タイ）との国際交流

外科学講座（心臓大血管外科学分野）・総務課



2024年1月15日から17日まで、2023年に国際交流協定を締結したタイのランパーン病院より、Worachet Taecharak病院長、Nuttapon Arayawudhikul胸部心臓外科長、Chuleephorn Nonthasoot医学教育センター長の3名が来訪しました。

15日には本学小講堂で講演会を開催しました。講演は「タイの医療」、「ランパーン病院の心臓血管外科手術」、「タイの医学教育」という3つのテーマで行われ、タイの医療保険制度、都市部と地方の医療格差といった課題、タイ国内でも手術件数が上位であるランパーン病院での低侵襲冠動脈バイパス手術等についての説明があった後、活発な質疑応答がなされました。

16日には学生交流覚書の調印式を執り行いました。調印式では、学生交流をスタートすることについて、西川学長からは「このような交流は学生の視野を広げると共に、地域及び国際医療への貢献が期待される。」、Worachet病院長からは「日本、タイそれぞれの良いところを活かした学生交流を進めていきたい。」といった展望が述べられました。

17日にはNuttapon先生による模範手術が実施されました。本院で海外の医師が執刀するのは初めてであり、厚生労働省の臨床教授許可のもと、全動脈グラフトを用いた人工心肺非使用の冠動脈バイパス術が施行されました。Nuttapon先生は東南アジアを代表する冠動脈手術の権威であり、本学医師にとって、卓越した技術を学ぶ貴重な機会となりました。

ランパーン病院との交流は、2022年に本学外科学講座（心臓大血管外科学分野）から臨床留学のために医師を派遣したことに始まり、2023年にはNuttapon先生が本学客員教授に就任し、2024年5月には国際交流協定が締結されました。2025年1月には、本学での手術見学を中心としてランパーン病院から初の留学生を受け入れるなど、今後も技術・学術面をはじめ、幅広い分野での交流と連携強化が期待されます。



▲学生交流覚書調印式



▲模範手術の様子
（左から2人目がNuttapon先生）

今号の掲載記事

○ ランパーン病院（タイ）との国際交流	1	○ ミニDAM実践セミナー開催	6
○ 構想30年 背柱側弯症発見支援装置「スコリオデバイス」ついに製品化	2	○ 連載【薬剤部】	7
○ 令和6年DMAT医療救護班の活動について	3	○ 連載【臨床検査・輸血部】	7
○ 病院機能評価の訪問審査を終えて	4	○ スマホ用アプリ「ウエルコネ」機能拡大	8
○ 第28回冬休みキッズスクール終了報告	4	○ 患者数統計	8
○ 医大祭開催決定！R7.6.7-8	4	○ 時事ニュース	8
○ 「多様な働き方推進事業者」に認定	4	○ 編集後記	8
○ 赤ちゃんにやさしい病院のこだわりのレシピ「母乳育児を成功させるための10カ条」	5		
○ ご退職者の最終講義に寄せて	5		
○ 臨床実習スタート	6		
○ 常春の南国から北の雪国へ — 旭医大の一年間	6		

旭川医科大学公式ニュースレター

大学の活動をいち早くお知らせする
大学公式ニュースレターです。
★登録はこちらから★



旭川医科大学基金へのご寄附のお願い

【ご寄附の内容】

1. 基金全般
2. 修学支援事業
3. 研究等支援事業
4. その他

【基金へのお申込み方法】

1. クレジットカード、コンビニエンスストアでの払込
2. 郵便振替払込
3. 銀行振込
4. 大学窓口への直接払込

詳しくはWebサイトにて ⇒



構想30年 脊柱側弯症発見支援装置「スコリオデバイス」

ついに製品化

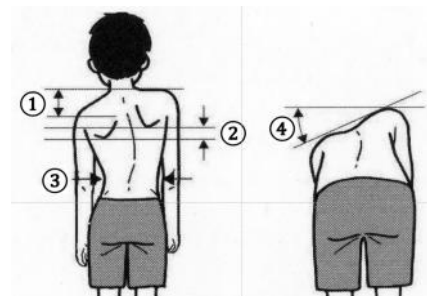
整形外科科学講座 技術補助員（システムエンジニア） 今井 充



脊柱側弯症という病気をご存知でしょうか？

脊柱側弯症とは、背骨が左右に曲がってしまう病気です。軽症を含めると100人に2、3人の割合で発症し、症状が進むと心肺機能が落ち、手術が必要になることもあるため早期発見が重要とされています。

側弯症を発見するための4つのチェックポイントは、①②両肩、肩胛骨の高さの左右差、③ウエストラインの非対称等がありますが、特に注目するのは、被検者を前屈させた状態での、④腰背部の隆起（傾斜）です。



▲4つのチェックポイント（（公財）日本学校保健会発行「児童生徒等の健康診断マニュアル」よりイラスト転載）

当科の初代教授である竹光義治名誉教授のご専門が脊柱であったことから、側弯症の専門外来が毎週あり（現在は隔週）、沢山の患者さんが受診されていました。程度の軽いうちは、経過観察やブレース治療を行うのですが、学校検診かどこかで見落とされたのでしょうか、手術が必要とされる患者さんがおられ、号泣していました。私もつらい気持ちになり、「どうしてこのような見落としが起こるんだろうか？」と疑問を持ちました。そこで当時の熱田助手（現、客員教授）が「生徒の背中をローラーのような装置でコロコロとなぞると、側弯有りのアラームを発するデバイスを開発できないだろうか」と着想を得たのがほぼ30年前の話です。

その後、エンジニアとしての私は、3Dプリンターでローラーを作り（2013年）、初めは「iPod touch」というApple社製品のプログラムを書いて、側弯外来や道内の学校検診で試用してきました。それが、2016年頃のことです。

しかし、大学だけで使用していたのでは普及していかないと感じ、この初期デバイス使用を希望する学校に貸し出し（開発者が現地で指導あるいは測定）することを新聞発表しました（2022年12月）。この記事に興味を持たれた江別に本社がある「電制コムテック株式会社」と当講座との共同研究が開始され、本年：2025年2月、「スコリオデバイス」の製品化にたどり着きました。

これまでの学校検診では目視や触診の検査が一般的でしたが、スコリオデバイスは、臀部から肩にかけてなぞるだけで簡単に背中中の傾きを測り、数値化することができます。検査時間は5～10秒です。

価格は他の大型の装置（数十kg）は数百万円するのに対して28万円と比較的安く、薄手であれば、服を着たまま検査できるのも特徴です。重さは500g（単三電池2本込み）くらいで、軽くてハンディですので、誰でもどこでも使用できます。

スコリオデバイスは道内は元より全国の小中学校などで活用が検討されています。

なお、スコリオデバイスの製品化にあたりましては、色々な企業の皆さま、本学事務の皆さまのご協力を頂きました。

この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



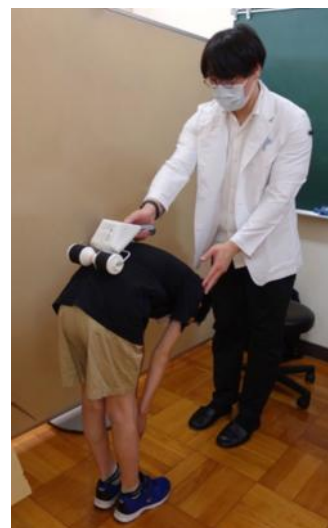
▲側弯症の方のX線写真



▲iPod touchを利用した初期デバイス



▲製品化「スコリオデバイス」



▲測定の様子

令和6年DMAT・医療救護班の活動について

救命救急センター

令和6年能登半島地震

厚生労働省DMAT事務局から能登半島地震へのDMAT派遣要請を受け、当院から令和6年1月7日に一次隊として岡田医師、及川医師、本間看護師、山尾看護師、三田村理学療法士のDMAT隊員5名を石川県輪島市に派遣しました。また、17日には二次隊として丹保医師、毛利看護師、日塔看護師、山田薬剤師、森内事務職員のDMAT隊員5名を同県珠洲市に派遣しました。さらに、29日には三次隊として高橋医師、須見看護師、中山看護師、佐藤臨床工学技士、橋場事務職員の5名を同県珠洲市に派遣しました。被災地の凸凹な道路状況や冬期の気象状況、上下水道が使用できない現地での活動は過酷なものでした。一次隊は活動拠点本部の立ち上げや福祉施設の巡回、感染避難所の看護業務等を行いました。二次隊は活動拠点本部での本部活動やクリニック・福祉施設の巡回等を行いました。三次隊は活動拠点本部での本部活動や保健師との被災地区全戸調査等を行いました。当該活動については、テレビ局や新聞等で報道されると共に、厚生労働省から同年4月30日付で感謝状が授与されました。今後も平時からDMATに関する研修や災害訓練等への積極的な参加を通して、将来発生し得る自然災害等への備えを充実させて参ります。



▲ 一次隊 岡田、本間、山尾、及川、三田村



▲ 二次隊 丹保、森内、日塔、山田、毛利



▲ 三次隊 橋場、佐藤、高橋、須見、中山

北海道マラソン2024

北海道救急医学会からの要請を受け、令和6年8月25日に開催された北海道マラソン2024に佐藤(寛)医師、山尾看護師、三田村理学療法士、森内事務職員の4名で40km地点救護テントでの医療救護活動を実施しました。当日は北海道の晩夏らしい穏やかな天候でしたが、合わせて4名のランナーが救護テントを利用しました。いずれも症状は重くなく、すべてのランナーが救護テントでの処置を受けた後に競技へ復帰し、無事に完走を果たしました。



▲ 他機関のスタッフと活動します

大規模地震時医療活動訓練

厚生労働省DMAT事務局からの依頼を受け、令和6年9月28日に岡田医師、須見看護師、日塔看護師、三田村理学療法士、森内事務職員のDMAT隊員5名で首都直下型地震を想定した大規模地震時医療活動訓練に参加しました。我々のチームは東京都小平市内の病院に設置された北多摩北部DMAT活動拠点本部の指揮下で清瀬市内にある病院の病院支援任務を命じられ、首都直下型地震発災後の道路状況を想定した移動訓練を行いました。



▲ 北多摩北部DMAT活動拠点本部にて

旭川医科大学災害訓練

本院の「事業継続計画(BCP)」に基づき、令和6年8月21日に震度6の地震を想定した災害訓練を実施しました。訓練では、DMAT活動拠点本部の立ち上げや傷病者の来院を想定したトリアージを行いました。このトリアージには、名寄市立総合病院や旭川赤十字病院のDMAT隊員、模擬患者として本学学生や地域住民の方々にもご参加いただき、実践的な訓練となりました。今後も災害訓練を繰り返していくことで、災害拠点病院としての体制強化に取り組んで参ります。



▲ 訓練中のDMAT本部

日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を終えて

経営企画課

1月29日から31日の3日間、病院機能評価の訪問審査を受審しました。病院機能評価とは、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施している医療機関を対象とした第三者評価で、4つの評価対象領域（「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践1」、「良質な医療の実践2」、「理念達成に向けた組織運営」）から構成される項目を用いて、病院組織全体の運営管理及び提供される医療について評価します。今回5期目の更新に向け、病院一丸となって準備を進めてきました。訪問審査最終日のサバイヤーからの講評では、多職種連携、チーム力を高く評価されました。病院機能評価は、今回の訪問審査で終了するものではなく、改善要望がある場合は、再調査となります。現在は、審査結果を待っているところで、認定の可否はわかりませんが、サバイヤーからの指摘や助言に従い、今後、更なる病院機能の向上に取り組みます。

【東 信良 病院長から】

皆様、病院機能評価に向けた準備を含め、大変ご苦勞様でした。総評で、職種間連携のすばらしさをお褒めいただいたことは大変嬉しく、当院職員の皆様の臨床現場での日々のご尽力や改善に向けた取り組みの数々を病院長として誇りに思います。

第28回 冬休み キッズスクール終了報告

二輪草センター

令和7年 1月6日・7日冬休みキッズスクールを開催しました。毎回好評のキッズスクールですが、今回も各日15名、計30名のこども達が元気に参加してくれました。

今回の特別授業は救急科 滝口 僚也先生による『救急科のお仕事』。

最初はドクターヘリの見学。テレビの中でしか見たことのない光景を間近で見ることで大人まで大興奮！見学後は救急時の対応や実際にAEDの体験をするなど、大変貴重な経験ができました。

工作『キッズコプター制作』では、個性あふれる素敵な作品が揃いました。学食で昼食を食べた後はみんなが大好きな体育館での活動。グループ対抗で障害物競争や大縄跳び、鬼ごっこをしたりと、大盛り上がりでした。おやつはクレープ作りに挑戦！破けないよう慎重に焼き、作ったクレープを頬張って『おいしい〜♪』と満面の笑顔のこどもたちでした。

子供たちにとって冬休みの良い思い出になれば嬉しいです。



医大祭開催決定！2025.6.7-8

講演 石橋 拓真 氏

現役医師で宇宙医学研究者。宇宙飛行士を目指しつつ多岐にわたる活動を展開されています。

6月7日（土）13:00-14:30

入場無料 先着申込優先
申込フォームは後日公開



多様な働き方推進事業者

「多様な働き方推進事業者」に認定

旭川医科大学は、仕事と生活の両立を支援し、誰もが働きやすく活躍できる職場環境づくりに取り組む事業者として、令和6年11月26日付でゴールド認定を受け、旭川市から認定証を受領しました。これからも取組を続け、職員の皆さんがさらに働きやすい環境を目指します。



赤ちゃんにやさしい病院のこだわりのレシピ 「母乳育児を成功させるための10カ条」

周産母子センターセンター長 長屋 建

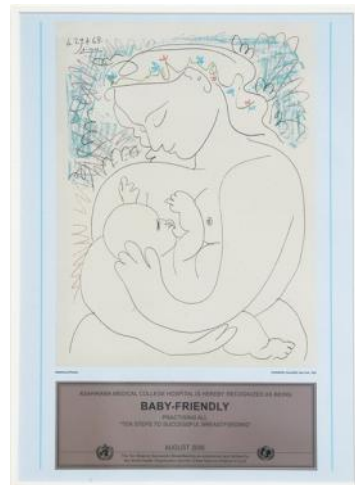
皆さんは「母乳育児を成功させるための10カ条」を聞かれたことがあるでしょうか。母乳育児の掟のように物々しいイメージを持たれるかもしれません。

当院は、WHO/ユニセフから母乳育児を通して母子に優しい支援をする「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital:BFH)」に認定されています。2005年に認定を受け、今年で20年になります。現在、国内には約2000の産科施設がありますが、そのうちBFHは64施設しかなく、医学部を持つ大学病院は当院を含めて2施設のみと貴重な施設と自負しています。

お母さんの体は妊娠中に大きく変化をしますが、出産後も母乳を分泌できるように変化をしていきます。ただ、その変化は自動的にしていくものではなく、赤ちゃんにおっぱいを沢山吸ってもらいながら、赤ちゃんとの協同作業で進んでいきます。一方で、お母さんの体はとても繊細で、母乳分泌への変化は取り巻く環境や関わりに容易に影響を受けるため、母子に適切な環境が提供されることは母乳育児がうまくいくことの必要条件になります。

私たちは特別な事をしているわけではなく、お母さんの心身の変化を見守りながら、母子と一緒に伴走しそんな適切な環境を整えていくお手伝いをしています。WHO/ユニセフが推奨する「母乳育児を成功させるための10カ条」はその環境を整えるためのエッセンスです。

素材の味を引き出す為にこだわり抜く料理人のように、母子の自然な力を引き出す為に、10カ条というレシピを手にこだわり抜いた支援を一人でも多くの母子に届け、母乳育児の喜びを感じてもらえるように、私たちは大学病院として活動を続けています。



ご退職者の最終講義に寄せて

病院広報誌編集委員会

令和7年3月末日をもって定年退職をされる教授の最終講義が行われました。これまでの教育・研究生活を振り返り、お一人お一人の想いを語っていただき、会場となった看護学科大講義室はもとより、Zoom配信での聴講者もみな終始深く聞き入っていました。

長い間ご尽力いただきありがとうございました。今後の更なるご活躍を祈念いたします。

解剖学講座(顕微解剖学分野)

渡部 剛 教授

「分泌経路を辿って：
40年間の研究生活を振り返る」

生理学講座(神経機能分野)

高草木 薫 教授

「歩むということ」

歯科口腔外科学講座

竹川 政範 教授

「医学部における歯科口腔外科学
－口腔機能の維持と回復－」



Student Doctors 臨床実習スタート

CBT・OSCEとは、医学生が臨床実習に必要な知識・態度・技術を備えているかを全国統一の基準により判定する試験です。

臨床実習が始まって

医学科第4学年 水野 愛子



年明けから、病院での実習が始まりました。医師になりたいという思いで旭川医科大学の門をくぐってから4年が経ち、ようやく待ちに待った臨床実習です。今まで授業で習ったことが理解できていても、臨床で使える知識にしていくことがいかに重要で難しいかを痛感します。また、患者さんの病気を診るだけでなく、人生に寄り添う姿勢や、家族への気遣いの大切さを肌で感じました。実習が始まった頃は、自分の未熟さを知り、将来に不安を感じましたが、今は医師として何を大切にしたいかを考えながら、日々実習に励んでいます。患者さんや、ご指導してくださる先生方、スタッフの方に感謝し、実習でしか学べないことを1つでも多く吸収したいです。そして、患者さんの心に寄り添える医師になれるよう頑張ります。

臨床実習に対する抱負

医学科第4学年 梅木 大輔

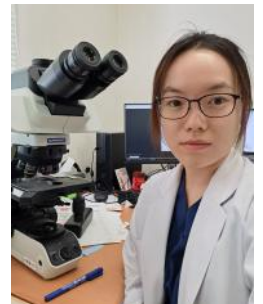


CBT、OSCEを経て、いよいよ臨床実習が始まりました。実際に臨床現場に立ち、これまでの学習がいかに机上のものであったかを痛感し、自らの知識の未熟さを改めて認識しています。患者さんと直接向き合うことで、試験のためではなく、患者さんのために学ぶという、医学の本質的な意義であり、医師を志した初心に立ち返ることができています。授業では得られない学びがある実習が成立しているのは、第一に患者さんの寛大なご理解とご協力によるものであることを再認識し、将来、より良い医療として還元することで報恩したいと考えています。最後に、実習に関わる全ての教職員に感謝して、今後も主体的に学び、実習を有意義なものにできるよう邁進していきたいと思っています。

常春の南国から北の雪国へ—旭医大の1年間

博士課程1年 病理部・病理診断科 劉 佳遥

私の故郷は中国の雲南省で、年間平均気温は約20℃と温暖な気候に恵まれ、絶景や花の楽園として知られる地域です。町の中では滅多に雪が降ることがないので、ここに来て初雪を見た感動は今でも覚えています。私は中国である程度の臨床経験を積んできましたが、日本に留学して以来、医学知識に対する厳密さ、優れた医療環境や医療資源、そして何より患者さんだけでなく、医師に対する思いやりのある配慮に深く感銘を受けました。専攻分野はもちろん、これまで知らなかった知識もブラッシュアップすることができ、病理を学べば学ぶほど、その奥深さと臨床との繋がりの重要性を実感し、同時にその魅力にも引き込まれていきました。特に、病理剖検で心臓を手にとった瞬間、生命の重みを改めて実感し、畏敬の念に満たされました。今後は研究などで取り組み、自分なりの成果を積み重ねられたらと思います。



ミニ Difficult Airway Management (DAM) 実践セミナー開催

麻酔科蘇生科 教授 牧野 洋

2025年3月1日(土)8:30-12:30、当院の臨床シミュレーションセンターにおいて、麻酔科主催による“ミニDAM実践セミナー”を開催いたしました。本セミナーは致命的となりやすい気道確保困難な症例に対する気道マネジメントを、ワークショップ(気管支ファイバー挿管・声門上器具を介した挿管・豚気管を用いた輪状甲状膜穿刺および切開など)とシナリオトレーニングで学ぶ実践的なセミナーです。今回は初回ということもあり、日本医学シミュレーション学会(JAMS)の協力を得て、インストラクターの先生方にご来旭いただき開催しました。麻酔科、救急科から合わせて8名の当院若手医師が受講し、本学に納入されたばかりの最新型高次機能患者シミュレータを用いて、安全な気道確保について理解を深めました。今後もこういった教育セミナーを定期的で開催し、医療安全の向上に努めていきたいと思っています。



薬剤部 新薬紹介 (87) チルゼパチド (マンジャロ®皮下注)

薬品情報室 久保 靖憲

チルゼパチド(商品名: マンジャロ®皮下注、以下本剤)は、2023年3月に発売された世界初の持続性GIP(グルコース依存性インスリン促進物質)/GLP-1(グルカゴン様ペプチド-1)受容体作動薬であり、2型糖尿病に適応を有する。本剤の規格は2.5mg、5mg、7.5mg、10mg、12.5mg、15mgの6種類がある。当院では2.5mg規格を通常採用しており、院外専用として5mg、7.5mg、10mg規格を採用している。生物学的同等性試験が未実施のため、1回に複数本の投与はできない。必要な投与量に応じて適切な規格を選択する必要がある。

本剤は、GIPにも作用するという点で他のGLP-1受容体作動薬とは一線を画す。GIPはGLP-1と同様に血糖値と連動したインスリン分泌を促進する作用のほか、食欲を抑制する作用や肝臓や脂肪細胞において脂肪分解を促進する作用を持つ。

用法・用量は通常、週1回5mgを維持用量とし、皮下注射する。ただし初回は、週1回2.5mgから開始し、4週間投与した後、週1回5mgに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週1回5mgで効果不十分な場合は、4週間以上の間隔で2.5mgずつ増量できる。最大用量は週1回15mgである。

重大な副作用として、低血糖、急性膵炎、胆嚢炎、胆管炎、胆汁うっ滞性黄疸、アナフィラキシー、血管性浮腫が報告されている。

本剤を含むGLP-1受容体作動薬については、医薬品医療機器総合機構(PMDA)および製薬企業より、美容・痩身・ダイエット等を目的とした不適正使用について通知が発出されている。処方する際は、承認された効能・効果、用法・用量を遵守の上、副作用について十分な説明を行う必要がある。

<参考文献>

「医薬品・医療機器等安全性情報 No.406」<https://www.pmda.go.jp/files/000265790.pdf>**臨床検査・輸血部** 新しい機器を導入しました。

- BD キエストラTM InoqulA 全自動塗布装置 -

微生物検査室 菊池 彩翔

いつも臨床検査・輸血部の活動にご協力いただきありがとうございます。

突然ですが、皆さん「微生物検査」という検査をご存じでしょうか？微生物検査は、患者さんから採取した検体から感染症の原因となる微生物を検出する検査です。

微生物検査の工程は、①培地というものを利用して微生物を発育させる工程(塗布)、②翌日に原因微生物を分類する工程(菌種同定)、③菌種同定後、原因微生物にどんな抗生剤が効くのか検査する工程(薬剤感受性検査)、④微生物検査担当技師により菌種同定、薬剤感受性検査の結果を確認し報告する工程(結果報告)と大きく4つの工程に分別され④に至るまで最低でも2日必要となります。

この度、微生物検査室にBD キエストラTM InoqulA 全自動塗布装置(日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)という新しい機器を導入いたしました(写真に写っている機器です)。本機器は、先程説明いたしました微生物検査の工程①を担う検査機器です。検体の種類により複数の培地を利用するため、現在は機器による塗布と微生物検査担当技師が手作業で行う塗布に分けて行っております。手作業による塗布は、技師の経験値に左右され片時も離れずに行う業務になりますが、本機器は磁気ビーズでの塗布を行うため塗布の質が一定となることに加え迅速化が可能となり、塗布の標準化や業務の効率化が期待できます。今後、手作業で行う塗布を減らしていきたいと考えております。

微生物検査は、前述の工程に記載したとおり検体を提出したその日のうちに全ての結果を報告することはできません。検査が進むたびに「中間報告」という形で臨床医の皆様へ報告をしておりますが、全ての結果が出揃うまで数日お時間をいただいております。新しい機器の導入により1日でも早く結果を報告できるよう今後も努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



スマホ用アプリ「wellcne(ウェルコネ)」の機能が拡大しました！！

料金計算による待ち時間の緩和を目的として導入したスマホ用アプリ「wellcne(ウェルコネ)」に、令和7年3月1日から2つの新機能が追加されました。

その1「wellcne(ウェルコネ)」のアプリから、予約情報が確認できます！

今までと同様に紙の予約票も、お渡しいたします。更に、予約日の前日には、患者さんのスマホに「プッシュ通知」でお知らせします！受診忘れを防げて安心です。

その2 入院費の支払いにも「後払い会計(アプリ決済)」が利用できます！

アプリ決済を利用すると、料金支払窓口に立ち寄る事なく、帰宅できます。利用される場合は、料金計算終了後に、登録されたクレジットカードにて決済させていただきます。

今後も機能の拡大と利便性の向上を図って参りますので、ぜひご活用ください。



令和6年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来 患者延数	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介割合	入院 患者延数	一日平均 入院 患者数	稼働率	前年度 稼働率	平均 在院日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
10月	30,827	1,401.2	97.9	1,057	100.7	14,289	460.9	76.6	79.6	9.7
11月	27,191	1,359.6	98.0	1,043	99.9	14,092	469.7	78.0	81.7	10.1
12月	27,800	1,390.0	97.6	940	102.4	14,816	477.9	79.4	76.5	9.9
計	85,818	1,384.2	97.8	3,040	101.0	43,197	469.5	78.0	76.4	9.9
累計	261,502	1,405.9	97.7	9,271	101.3	126,966	461.7	76.7	76.4	9.9

時事ニュース

- ・医師国家試験 2月8日、9日
- ・看護師国家試験 2月16日
- ・医師国家試験 合格発表 3月14日 14時
- ・看護師国家試験 合格発表 3月24日 14時
- ・学位記授与式 3月25日
- ・入学式 4月7日



編集後記

「冬の苦行」を終え、待望の「シベリア廊下」のリニューアル工事が終了し、明るく綺麗で温かい姿に見事に変貌を遂げた「シン・シベリア廊下」が1月30日から開通した。行き来する大学関係者はもちろんのこと夜間の掃除や警備を担当してくださっている方たちも心なしか表情が明るい。同時に工事が始まった「臨床講義棟」も完成し学生さんたちも嬉しそうである。多くの人々に快適さをもたらした本工事は、輝く大学・大学病院の未来を拓く原動力になるだろう。一方、3月は別れの季節である。本年も長きにわたり本学・本院のために尽力されてきた3名の教授を含め多くの方々を送り出す。毎年のことではあるが、やはりいつも寂しくセンチメンタルな感情になる。同時に、長きにわたるご功績を改めて振り返る機会となり、改めてそのご尽力に心から敬意と尊敬の念を抱く。人生100年時代、これからの人生が益々幸多かれと願う。

委員長 谷野 美智枝